学校安全ネットワーク情報 Vol.32

◎中島小学校の防犯ボランティア連絡会議

平成27年12月15日（火）に中島小学校で、防犯ボランティア連絡協議会が開催されました。

会議の前に、「感しゃの会」が行われ、 防犯ボランティアの方々に対して、日頃の感謝の気持ちが伝えられました。

学校から、児童の教育活動に関する写真がスライドショー形式で映写され、学校行事等での児童の様子が紹介されました。

防犯ボランティアの方から通学路の危険個所等についての情報提供がありました。 PTAの代表の方からはPTAとして安全に関する知識を深めていきたいとの話がありました。

防犯ボランティア・リーダー池田さんからは、防犯ベストを着用した見守り活動が「地域の防犯力」になるため、今後も防犯ベストを着て防犯の「見える化」を進めていってほしいとの話がありました。

◎学校安全ネットワークボランティア研修会

平成28年1月14日（木）、15日（金）に市民会館うらわ、市民会館おおみやにて、防犯ボランティアの方や教職員等を対象とした研修会を開催しました。

主な内容は以下のとおりです。

①学校安全ネットワークに係る行政説明

②インターナショナル・セーフ・スクール（ISS）認証取得に向けて取組を進めている慈恩寺小学校の実践発表

③犯罪社会学を研究分野とされ、 犯罪の予測について精力的に研究されている、立正大学小宮信夫教授の講演

【行政説明の様子】

立正大学小宮信夫教授の講演内容（抜粋）

犯罪が起きやすい場所は

「入りやすく、見えにくい」場所

・入りやすいとは‥壁やドア等、障害になるものが少ないこと。また、出入口が多いこと。
→犯人が逃げやすいと感じます。

・見えにくいとは‥高い壁に囲まれている。周囲に家が少ない等。
→犯人が周囲から見られていないと感じます。

例えば、トンネルや、周囲に家が少ない田んぼ道、立体駐車場の屋上等が**「入りやすく、見えにくい」場所**にあたります。

このように、景色を見てその場所が安全かどうかを判断する能力を小宮教授は**「景色解読力」**と定義していらっしゃいます。

約430名の方にご参加いただきました。

【講演の様子】

また、以下のようなお話がありました。

・見た目では、犯罪者かどうかの判断がつきません。

・犯人は、子どもと話すなどして親しくなり、警戒心を解いた後に犯罪に及ぶ場合があります。「知らない人にはついていかない」と子どもに教えても、犯人が子どもと二言三言話をするだけで子どもにとっては、「知らない人」が「知っている人」になってしまう可能性があるので、注意が必要です。

・駅前など、人通りが多い場所では、周囲の人の視線が分散されてしまっています。人通りが多い場所だからといって子どもの様子を見ている人がいるとは限りません。このことから、人通りが多い場所でも安心はできません。

・夜道に街灯があっても、周囲から見られていなければ、その場所がただ明るくなるだけです。このことから、街灯があったとしても注意する必要があります。

編集・発行：さいたま市教育委員会健康教育課　平成28年3月3日発行